

# 災害に備え 参集訓練

## 宇管工 ライフラインの復旧体制構築



山本副理事長

宇都宮市管工事業協同組合（和田均理事長）は14日、宇都宮市上下水道局との応急対策協定に基づき参集訓練を実施。組合員57社から92人が参加し、万が一の災害発生に備え迅速な対応が可能な体制を構築した。

訓練は午前9時にスタート。震度6強の地震を想定し、宇都宮市平出工業団地の管工事会館に置かれた組合災害対策本部からFAX



市内各所から組合員が駆け付けた

で会員企業を招集した。約1時間後には市内各所の人員が駆け付け、会館の駐車場に整列。各グループの

日工経 30.7.18

リーダー・サブリーダーが人数を確認し、災害対策副本部長を務める山本幹夫副理事長に報告した。

山本副理事長は「西日本豪雨ではライフラインが寸断された。寺田寅彦が天災は忘れた頃に來ると言っているように、いつ関東地方にも災害が発生するかわからない。スピーディーな参集に感謝する」と講評を述べた。

組合では災害発生時のライフラインの確保を重要視。初開催となった参集訓練に加えて年内に応急復旧訓練と応急給水訓練を行い、来年度には3つの訓練を組み合わせた総合的な訓練を行う予定。